



平成 24 年 5 月 25 日
独立行政法人国立科学博物館

世界最大の「花」、ショクダイオオコンニャクが咲きました

国立科学博物館筑波実験植物園(園長 岩科司)では、平成24年5月14日にプレスリリースしました世界最大の「花」といわれるショクダイオオコンニャク(燭台大蒟蒻)が5月25日に開花しましたので、お知らせいたします。

開花までの生長の様子も見どころで、これまで毎日、生長の姿をホームページに公開してきました。<http://info.tbk.kahaku.go.jp/news/konnyaku/>

世界でも開花がまれで、しかも咲いて2日目にはしおれてしまうことから、花を見るチャンスはめったにありません。 詳細は「ショクダイオオコンニャクに関するメモ」をご覧ください。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部研究推進・管理課研究活動広報担当：中嶋 まさ枝
担当研究員：遊川 知久(植物研究部多様性解析・保全グループ長)
〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: mnakajim@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP

<http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP

<http://www.tbk.kahaku.go.jp/>

ショクダイオオコンニャクに関するメモ

1) 基本情報

標準的な和名: ショクダイオオコンニャク(燭台大蒟蒻)

学名: *Amorphophallus titanum* (アモルフォファルス・ティタヌム)

科名: サトイモ科

分布: インドネシア・スマトラ島の熱帯雨林

花序の最大のサイズ: 高さ 3.1m(ギネスブックの公式記録)、直径 1m

2) 今回の開花について

開花日: 5月25日

日本での開花: 9例目(6カ所目)

履歴:

1992 年に小石川植物園で播種した苗を 2006 年に譲り受けた

生育・休眠を数回繰り返し、2012 年3月に生育を開始。3月 16 日に定植

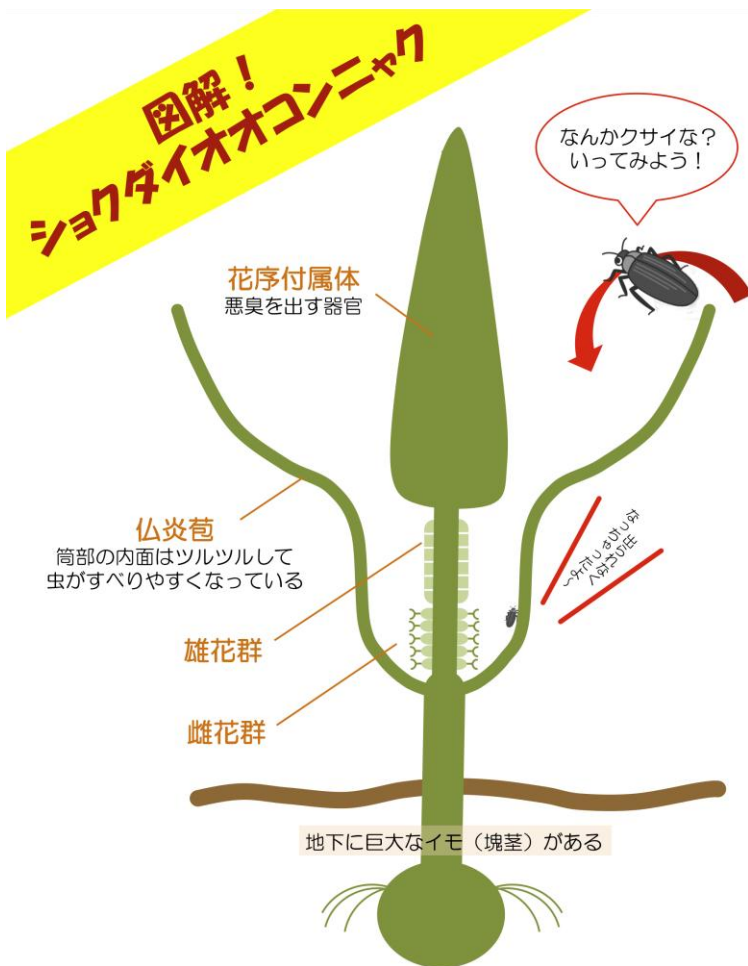
塊茎(イモ)のサイズは直径 51cm 厚さ 30cm 重量 34kg

3) 花の見ごろについて

見ごろは開花日を含め2～3日です。3日めには花が閉じることが予想されます。

4) 世界最大の「花」の表記について

ショクダイオオコンニャクの「花」は、正確には花序(花の集まり)です。たとえばアジサイのかたまって咲く花と同じです。花そのものが最も大きい植物は、ラフレシアの1種です。



受粉のしくみ

花が開くやいなや動物の死骸にそっくりな臭いに呼び寄せられるのは、腐肉を好む甲虫シテムシの仲間です。スカートを逆さにしたような仏炎苞に落ちたシテムシの中には、他のショクダイオオコンニャクの花粉をつけているものもいて、その花粉が雌しべにつくと受粉成功です。開花翌日には雄しべから大量の花粉が出され、シテムシは花粉まみれになります。しばらくすると花は倒れ、ようやくシテムシたちは花から脱出できますが、うっかり者は再び別の花に捕まり、花粉の運び手として「ただ働き」させられるのです。



シテムシの1種